

授業科目	地域スポーツ特別演習 Community Sports			担当教員	熊谷 賢哉		
展開方法	講義	単位数	2単位	開講年次・時期	1・2年/前期	必修・選択	選択
授業のねらい							
<p>複合的な学問分野で博士の学位論文を提出しようとしている大学院生が、データを集めたり処理したりする時に適切な方法を選択することができるようになることを目標とする。また、学術論文としての体裁を整えるのに必要とされる書き方を学ぶことを目標とする。</p>							
観点	学生の授業における到達目標			評価手段・方法		評価比率	
関心・意欲 ・態度	与えられた課題に対して自ら積極的に取り組み、その議題について討議することができる。			・授業態度、授業への参加		40%	
思考・判断							
技能・表現							
知識・理解	データを集めたり処理したりする時に適切な方法を選択できる。学術論文としての体裁を整えるのに必要とされる書き方ができる。			・授業外レポート ・プレゼンテーション		20% 40%	
出席						受験要件	
合計						100%	
評価基準および評価手段・方法の補足説明							
<p>授業態度、授業への参加を通して、与えられた課題に対して積極的に取り組んでいるか、その議題について討議できているかを評価する（40%）。また、データを集めたり処理したりする時の適切な方法を選択できるようになったか、学術論文としての体裁を整えるのに必要とされる書き方ができるようになったか、を授業外レポートやプレゼンテーションを通して評価する（60%）。</p>							
授業の概要							
<p>テキストを輪読していく（①担当箇所（担当者）の決定、②担当箇所を精読、③要約、④レジュメの作成、⑤報告、⑥ディスカッション）。なお、②～④の行程については、担当者が事前に準備するものとする。特に重要なところについては、講義形式により補足を行う。</p>							
教科書・参考書							
<p>教科書：『最新 体育・スポーツ科学研究法』大修館書店、1999年 参考書：特になし</p>							
授業外における学修及び学生に期待すること							
<p>本特講で行う内容に興味を持ち積極的に参加してほしい。また、本特講で行った内容のみを修得するのではなく、より深い内容を独学で修得していくぐらいの取り組みを行ってほしい。</p>							

回	テ ー マ	授 業 の 内 容	予 習 ・ 復 習
1	オリエンテーション	自己紹介、授業の進め方について説明	現時点における自分の研究概要に関してまとめてくる。
2	研究過程の概観(1) 学際的研究序章	1. 研究の性質、2. 問題解決の非科学的方法と科学的方法、3. 研究モデルの選択肢、4. 研究の種類、5. 研究法の流れを観察する、6. 論文の各部分	テキストの要約 (P16～P39)
3	研究過程の概観(2) 問題の開発と文献の利用	1. 研究課題を確定する、2. 文献レビューの目的、3. 基本的な文献検索法、4. 文献検索の六段階	テキストの要約 (P42～P63)
4	研究過程の概観(3) 研究課題を提示する	1. 論文題目を決める、2. 緒言を書く、3. 問題を提起する、4. 研究仮説を示す、5. 用語を操作的に定義する、6. 基本的な仮定条件とその限界設定・限界を示す、7. 研究の重要性を示す、8. 学位論文と学術雑誌に掲載する研究論文との違い	テキストの要約 (P66～P78)
5	研究過程の概観(4) 研究方法を系統だてて述べる	1. 研究方法上の詳細内容を示す方法、2. 方法を計画することがなぜ大切なのか、3. 実験を計画するための二つの原理、4. 被験者を記述する、5. 研究手段を記述する、6. 研究手順を記述する、7. 研究デザインと分析方法、8. 因果関係を確定する	テキストの要約 (P80～P90)
6	研究過程の概観(5) 研究および学術上の倫理的問題	1. 科学における七つの不正、2. 著作権に関する倫理的問題、3. 科学における不正行為を考えるための規範、4. 指導教授との共同研究、5. 被験者の保護、6. 実験動物の保護	テキストの要約 (P92～P108)
7	研究の種類(1) 身体活動における歴史研究	1. 歴史家は始める、2. 研究計画を立てる、3. 証拠を検討する、4. 最終的な見解	テキストの要約 (P290～P318)
8	研究の種類(2) 身体活動の哲学的研究	1. 哲学的研究の目的とは、2. 研究上の問題を定める、3. 研究上の問題を分析する	テキストの要約 (P320～P335)
9	研究の種類(3) 研究統合(メタ分析)	1. 研究統合のためのメタ分析の利用、2. メタ分析の使用例	テキストの要約 (P338～P363)
10	研究の種類(4) 記述研究	1. 四つのサーベイ調査の技法、2. 発達研究、3. 事例研究、4. 職務分析、5. 観察研究、6. 目立たない調査技法、7. 相関研究	テキストの要約 (P366～P399)
11	研究の種類(5) 実験的研究と疑似実験的研究	1. 非妥当性の源、2. 内的妥当性に対する八つの不確定因子、3. 外的妥当性に対する四つの不確定因子、4. 内的妥当性に対する不確定因子を制御すること、5. 外的妥当性に対する不確定因子を制御すること、6. 配置のタイプ	テキストの要約 (P402～P424)
12	研究の種類(6) 質的研究	1. 量的研究と質的研究の板挟み、2. 質的研究の手順、3. 質的研究における内的妥当性と外的妥当性の確立、4. 結論	テキストの要約 (P426～P447)
13	研究報告を書く(1) 研究計画	1. 良い緒言の展開、2. 研究方法の記述、3. 研究計画書の手順、4. 室を求める研究計画書の準備を発表のしかた、5. 研究助成金機関への研究計画の書き方、6. 大学内での研究計画の申請	テキストの要約 (P452～P458)
14	研究報告を書く(2) 結果と考察	1. 結果の書き方、2. 考察の書き方、3. 多重実験のまとめ方、4. 表や図の使い方	テキストの要約 (P460～P473)
15	研究報告を書く(3) 研究レポートの方法	1. 書き方の基本的なガイドライン、2. 謝辞について、3. 修士論文・博士論文の形式、4. 学術雑誌の書き方に成功する、5. 要約を書く、6. 口頭発表やポスター発表を行う	テキストの要約 (P476～P493)